312　ヒトパピローマウィルス（HPV）検出キット「Viratype」の使用経験

舘野円　小出博子　井上登美夫　佐々木康人（群馬大学核医学教室）五十嵐均（同中放核診療部）

HPVは，尖形コンジローマ，子宮頚癌，外陰部癌などの原因とされている。細胞内HPVの存在証明法としては，細織診断やDNAプローブ法を応用したサザンブロット法が行なわれているが，手技が困難であったり，判定にも熟練を要する。Vira type は，RNAプローブ法を応用したもので，HPV DNAと^{32}P標識RNAをハイブリダイゼイションさせ，オートラジオグラフィで検出する。比較的簡便な検査であり，検体は擦過材料で十分である。また，判定にも熟練を要しないので，日常検査として使用することが可能である。本法により検査した尖形コンジローマ12症例中7例で，HPV6・11型が陽性であった。

313　扁平上皮癌における抗SCC 抗原モノクローナル抗体を用いた血清，組織中SCC 抗原量の測定と免疫組織化学的検討．

宮川直子，木村良子，阿多まり子，越智香，藤井崇，飯尾篤，濱本研（愛媛大・放射線科）

我々は，血清SCC 抗原測定が，各種扁平上皮癌において有用なマーカーであることを報告してきた．今回は，肺癌，食道癌，肺良性疾患について，免疫組織化学的にSCC 抗原の局在を明らかにするとともに，血清，組織中SCC 抗原量を，定量し，正常組織と対比検討した．ほとんどの肺，食道扁平上皮癌組織の癌細胞質内に，特異染色が認められ，分化度と染色性に相関を認めた．正常組織および扁平上皮癌以外の癌組織には，特異染色を認めなかった．組織中SCC 抗原量と染色強度に相関が見られたが，血清SCC 抗原量と組織中SCC 抗原量の間には，明瞭な関連は，見出せなかった．

314　悪性腫瘍におけるCarbohydrate Antigen 72－4（CA 72－4）の検討

加藤義郎，和田祐爾，高橋利明，辻野大二郎，染谷一彦（聖医大・三内）　高橋孝子，山下あけみ，菊池いづみ，板垣勝義，石川　徹（同・放部核）
佐々木康人（群大・核）

Colcher らにより報告された糖鎖抗原CA 72－4は，乳癌肝転移細胞から得られたモノクローナル抗体によって認識された糖蛋白抗原である。

今回，我々はエルザCA 72－4 キットを使用する機会を得たので，その臨床的検討を行なった。臨床的Cut off値は4u／mlとした。悪性腫瘍では，膵癌（60％），大腸癌（44％），胃癌（30％）で高い陽性率が得られた。良性疾患の疑陽性率は2.5％と低率であった。また，他の腫瘍マーカーとの組み合わせ測定についても検討した。

315　血清膵癌胎児抗原 Pancreatic Oncofetal Antigen(POA)測定キットの基礎的ならびに臨床的検討

斎藤康子，高田忠敬，安田秀喜，内山勝弘，四方淳一（帝京大学第一外科）　国安芳夫，東静香，小玉門弘，新尾康男（帝京大学病院放射線科）

POA 測定キットの基礎的検討を行うと共に膵癌患者を中心に血清POA 値を測定しその有用性を検討した。基礎的検討の結果から，現在の測定系は臨床で十分使用可能であった。健常者のMean±S.D.は3.1 ±0.9 U/mlで，カットオフ値を6.0 U/mlとした。POA の陽性率は膵癌70%，急性膵炎64%，肝細胞癌55%，肝障害55% で，胆道癌，慢性膵炎，良性胆道疾患，その他の悪性腫瘍は夫々46%，25%，35%，42% であり，膵癌と慢性膵炎や胆道癌の鑑別診断においてPOA 値の測定は有用と思われた。さらに，膵癌の早期発見のためにPOA とCA 19-9 とのコンビネーションアッセイは有用と思われた。

316　改良型ボール固相抗体を用いたCA 19－9キットの使用経験

高橋孝子，山下あけみ，菊池いづみ，岡田崇子，板垣勝義，石川　徹（聖医大放射線部核医学）
加藤義郎，和田祐爾，高橋利明，辻野大二郎，染谷一彦（同大第三内科）

CA19－9は現在も広く利用されている腫瘍マーカーの1つである。本キットは固相化抗体の表面積を増やす目的で，プロペラ状のプラスチック板の数を増やし，形状もボールタイプとしている。振とうを加える事により，反応温度も室温で，反応時間も短縮され，全測定操作も約5時間で終了する。この改良型ボールエルザCA 19－9キットを検討する機会を得たので，その使用最適条件等につき報告する。

317　膵癌診断における血清膵マーカー測定の意義

柴田時宗　早川哲夫　酒井雄三（名古屋大学第二内科）

膵癌診断における血清膵マーカーの役割はERCPなどの形態学的検査にいたる契機となることである。われわれは現状において，感受性・特異性が高いとされるエスラターゼ1（IRE）とCA19－9を用い，膵癌診断における役割を検討した。膵癌40例（頭部癌27例，体尾部癌13例）を対象とし，IREはダイナボット社製RIAキット（＜410ng/dl），CA19－9はセントコア社製RIAキット（＜37U/ml）にて測定した。全体での陽性率はIREは70%，CA19－9は68%であった。部位別では頭部ではIREは89%，CA19－9は59%であり，体尾部ではそれぞれ31%，85%であった。一方，切除の可否でみると切除可能例（18例）ではIREの陽性率は88%と高率であったが，CA19－9は56%に留まった。IRE の高値例に切除可能な比較的早期の膵癌が多く，CA19－9 高値例では切除不能例が多かった。両者の組合せ診断での陽性率は95%と高率であった。

Presented by Medical*Online